ボーリング柱状図

調　査　名

事業・工事名

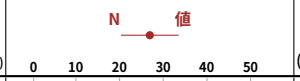
ボーリングNO.									
シートNO.									

ボーリング名	B-No.2	調査位置				北　緯	36 ° 53 ' 39.0000 "
発 注 機 関	栃木県大田原土木事務所			調査期間	2008-07-15 ～ 2008-07-17	東　経	139 ° 59 ' 58.0000 "
調 査 業 者 名		主任技師		現　場 代 理 人		コ　ア 鑑 定 者		ボーリング責任者	
孔 口 標 高	241.96 m	角度	180° 上 90° 下 0° 0.00 °	方向	北 0° 270° 西 90° 東 180° 南 .00 °	地盤勾配	鉛直 90° 水平 0° 0.00 °	使用機種	試 錐 機		ハンマー落下用具	
総 掘 進 長	11.45 m								エンジン		ポ ン プ	

標尺 (m)	標高 (m)	層厚 (m)	深度 (m)	柱状図	土質区分	色調	相対密度	相対稠度	記事	地層岩体区分	孔内水位 (m) ／ 測定月日
1	240.86	1.10	1.10		砂質シルト (MS)	暗褐			上部10cm植生根多い　含水比中～上位　少量の腐植物を混入 全体に細砂を含む		07/16 3.10
2	239.86	1.00	2.10		礫混りシルト (M-G)	暗褐		硬い	含水比上位 φ10～40mmの亜円・亜角礫を散在 1.6m付近コア長100mmの玉石（凝灰質）を混入		
3	238.06	1.80	3.90		砂礫 (GS)	緑褐灰			φ10～50mmの亜円・亜角礫主体　マトリックスは主に粗砂 2.8mよりコア長70mmの玉石混入以深含水比やや高くなる 3.4～3.7m間コア長50～100mmを連続的に3個混入　玉石混り砂礫で崩壊性大		
4	235.76	2.30	6.20		粘土混り砂礫 (GS-C)	緑褐灰			φ10～30mmの亜円・亜角礫主体 マトリックスは細粒土主体 4.9m付近まで緑褐灰色を呈す 以深淡褐灰色に変化し含水比非常に高くなる　礫間はルーズな状態で孔壁の崩壊性大 5.8m付近コア長60mmの玉石混入以深φ50～60mmの粗礫の混入多い		
7	230.51	5.25	11.45		砂 (S)	暗紫灰	密な		細砂主体　シルト分の混入多い 砂は火山砂主体 φ3～10mmの暗茶褐の浮石・細礫混入多い 上部1.5m間は緩い状態 7.8m付近より浮石の混入多くなる φ10～15mmの混入多くなる　火山砂主体（泥流堆積物）である		

標準貫入試験

深度 (m)	10cmごとの打撃回数 0～10	10～20	20～30	打撃回数／貫入量 (cm)	N値
1.15	2	2	3	7／30	7
1.45					
2.15	3	6	6	15／30	15
2.45					
3.15	10	11	9	30／30	30
3.45					
4.15	9	7	6	22／30	22
4.45					
5.15	6	7	8	21／30	21
5.45					
6.15	2	2／15	1／20	5／45	3
6.60					
7.15	5	5	6	16／30	16
7.45					
8.15	10	11	21	42／30	42
8.45					
9.15	11	12	16	39／30	39
9.45					
10.15	12	13	17	42／30	42
10.45					
11.15	10	12	18	40／30	40
11.45					



原位置試験 深度 (m)	試験名および結果	試料採取 深度 (m)	試料番号	採取方法	室内試験	掘進月日
						07/15
						07/16
						07/17